

2025 年度
(令和 7 年度)

学校関係者評価報告書

2025 年 8 月

学校法人 国際文化アカデミー
JTB ツーリズムビジネスカレッジ

1、学校関係者評価

(1) 目的

- ① 自己評価の評価結果の客観性・透明性を高める。
- ② 専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校の重点目標や評価項目が適切か
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

(3) 評価期間

2024年度（2024年4月1日から2025年3月31日）

(4) 評価結果の公表・活用

- ① 評価結果や今後の改善方策等を公表する。
- ② 評価結果を改善方策の検討に活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的な改善を図る。

(5) 学校関係者評価委員会の構成

① 学校関係者評価委員 4名

氏名	種別	所属	役職	任期
遠山 慎吾	企業	(株)京王プラザホテル	人財戦略部人事支配人	3年
齊藤 一郎	地域	巣鴨信用金庫	本店営業部 部長	3年
飯塚 祐美	卒業生	三井不動産 株式会社	(同窓会会長)	3年
土井 えり子	企業	(株) J T B	人財開発チームマネージャー	3年

② 学校経営者層教職員 4名

氏名	所属	役職
坂本 友理	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	常務理事 校長
鈴木 良照	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	常務理事 法人統括本部長
田中 篤	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	企画総務部長
堀口 由美子	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	教務部長

(6) 学校関係者評価委員会の実施状況

- ① 日時 : 2025年8月5日(火) 14:00~16:10
- ② 場所 : JTB ツーリズムビジネスカレッジ 会議室
- ③ 参加者 : 学校関係者評価委員及び学校経営者層教職員
- ④ 配布資料 : 2025年度自己評価報告書
- ⑤ 議題 : 2024年度の自己評価について

2、実施方法(評価)

(1) 『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施した『2025年度自己評価報告書』について、学校関係者教職員から基準毎(1~10)について説明を行った後、学校関係者評価委員が点数化し、その平均点(小数第2位を四捨五入)を記載した。(自己評価についても、各項目の平均点を記載した。)

(2) 基準毎の評価点は下記の通り

- 4点 : 適切
- 3点 : ほぼ適切
- 2点 : やや不適切
- 1点 : 不適切

(3) 学校関係者評価委員からの質問、意見等を記載した。

3、評価結果報告

【基準1】教育理念・目的・人材育成

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
1-01	理念・目的・育成人材像	4.0	4.0

(意見)

- ・教育理念と育成方針が明確に共有されており、産業ニーズに応じた取り組みも積極的に行われている点が評価できる
- ・人口減少や多様化するニーズを課題として認識している。
- ・経営計画の見直しや、市場環境の変化に伴い、教育理念・あるべき姿のアップデートがされている。
- ・ツーリズム産業全体への人材輩出という目的も見据えた活動となっており、意義の高いものと認識している。

【基準2】 学校運営

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
2-02	運営方針	4.0	3.75
2-03	事業計画	4.0	
2-04	運営組織	4.0	
2-05	人事・給与制度	3.6	
2-06	意思決定システム	4.0	
2-07	情報システム	3.8	

(質問・回答)

・特に気を付けている CPU ウイルスは？

⇒標的型攻撃メール（フィッシング）。間違える前提で対策を講じていきたい。

(意見)

- ・経営方針と事業計画が連携し、組織的かつ柔軟に運営されている点が評価できる。
- ・組織の在り方や仕組みの見直しをされており、今後さらに柔軟な運営がされていくことを期待している。
- ・人材の確保は継続した課題であり、そのための制度や基準の改定も行われ、今後もより成果がでることを期待している。
- ・学生の環境整備や生産性向上のため、システム化が急務である。
- ・新たなコンピュータウイルスの脅威に対しての体制の強化がますます必要になってくると思う。

【基準3】 教育活動

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
3-08	目標の設定	4.0	4.0
3-09	教育方法・評価等	3.9	
3-10	成績評価・単位認定等	4.0	
3-11	資格・免許の取得の指導体制	4.0	
3-12	教員・教員組織	3.88	

(質問・回答)

・教職員の IT リテラシー向上の進捗状況は？

⇒常勤職員は Online 授業や Google Classroom の活用など IT リテラシー向上が図れている。更にデジタルを活用した学校運営を進めていきたい。

(意見)

- ・外部コンテストでの活躍は素晴らしい。
- ・デジタルを活用した教育環境は、ますます必要度が上がっていくので、教職員へのITリテラシー向上のための取り組みをしてほしい。
- ・国内外の観光需要回復と多様な連携の推進により、産学連携や人間力育成を重視したカリキュラム強化に成功している点が評価できる。
- ・「観光メディア論」は良い内容なので、他自治体等でも活用出来るように発展させてほしい。

【基準4】学修成果

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
4-13	就職率	4.0	4.0
4-14	資格・免許の取得率	4.0	
4-15	卒業生の社会的評価	2.5	

(質問・回答)

- ・国家試験は留学生も受験するのか？日本語力が合否に影響するのか？
⇒一部の留学生は受験をしており、合格者も出ている。日本語力もある程度必要であり、非漢字圏の留学生はハードルが高い。

(意見)

- ・(4-15-1)の評価は「3」で良いのではないか？同窓会活動の活性化に期待したい。
- ・資格の合格率が低迷している根本原因を確認し、日常での学び方や指導方法を検討、改善することを期待している。
- ・就職率の継続的な高さと、多様な連携による学生の視野拡大に努めている点が評価できる。

【基準5】学生支援

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
5-16	就職等進路	4.0	3.75
5-17	中途退学への対応	4.0	
5-18	学生相談	4.0	
5-19	学生生活	3.75	
5-20	保護者との連携	4.0	
5-21	卒業生・社会人	2.8	

(質問・回答)

- ・コミュニケーションの大切さは、今後必要性が高まると思う。
- ・国籍や背景の違う学生へ、丁寧な対応をしていることは評価できる。
- ・中途退学率が悪化しており、引き続き、生徒に寄り添った丁寧な指導を期待している。
- ・退学率の改善に向けて多角的な取り組みを行っている点は評価できる。
- ・同窓会運営について、今後の活性化に向けたさらなる工夫を期待している。

【基準6】教育環境

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
6-22	施設、設備等	3.88	4.0
6-23	学外実習、インターンシップ等	4.0	
6-24	防災・安全管理	4.0	

(質問・回答)

- ・ライブラウンジの図書のデジタル化について質問があった。
- ⇒私学法において、紙での書籍の一定数の設置が規定されているものの、学生の学習スタイルの変化に合わせ、電子書籍やデジタル資料の対応を検討していく。

(意見)

- ・老朽化した施設の対応に留まらず、学生にとってもコミュニケーションや活用の幅の広い図書館にリノベーションしたことは、学生の学習環境面整備において評価できる。
- ・海外研修などの異文化体験を通じて学生の視野拡大に寄与している一方、留学希望者の減少には円安や意欲の変化が影響していることは理解できる。
- ・巣鴨大鳥神社商店街が中心となって、年に1回防災訓練を行っているので、今後参加の検討をしてみてはどうか？

【基準7】学生の募集と受入

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
7-25	学生募集活動	4.0	3.75
7-26	入学選考	4.0	
7-27	学納金	4.0	

(質問・回答)

・観光科とホテル科希望の割合はどのくらいか？また、在学中の科の変更は可能か？
⇒おおよそ観光科：ホテル科＝8：2の割合。科の変更は不可であるが、観光科の生徒もホテルへ就職するなど、就職時の割合は異なっている。

・留学生は増えてきているのか？
⇒東南アジア（ミャンマー・ベトナム）からの留学生が増加傾向。従来多かった中国からの留学生は大学希望へシフトし減少傾向。同じ国のコミュニティーからの口コミや日本語学校の先生からの紹介が留学生増加の要因と思われる。

・日本語のレベルを問わずに受け入れている専門学校はあるのか？
⇒早々に募集を締め切る専門学校もあるが実態は不明。当校の留学生の日本語レベルは比較的高いとの評価を受けており、一定程度の基準（N2）は必要と考えている。

(意見)

・形式に捕らわれず、LINE等の活用により気軽に話の出来る環境は大切だと思う。
・日本人学生にとってツーリズム業界、JTBグループの認知度が低迷しているなか、さまざまな取り組みをしていることを認識した。

・留学生の質や語学レベルを担保しながら学生数が増加していることは大いに評価できる。

・コロナ禍による影響はまだあるものの、外部の知見を得ながら留学生の回復に成功している点が高く評価できる。

・オープンキャンパスで、職場見学があるのは卒業後の働くイメージができてよいプログラムだと思う。

【基準8】財務

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
8-28	財務基盤	3.85	4.0
8-29	予算・収支計画	4.0	
8-30	監査	4.0	
8-31	財務情報の公開	4.0	

(意見)

・現状が収支マイナスであっても、しっかりと将来像が出来ていれば、問題無いと思う。

・教職員による経費コントロールは強く意識されていると認識した。将来にわたり、安定した財務基盤の整備が求められるため、今後も適正な投資の継続を要望する。

・収支状況は課題が残るものの、収入に応じた経費管理を徹底する姿勢は評価できる。

【基準9】法令等の遵守

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	4.0	4.0
9-33	個人情報保護	4.0	
9-34	学校評価	4.0	
9-35	教育情報の公開	4.0	

(意見)

- ・コンプライアンス対して、高い意識をもって取組みをしていることを認識した。
- ・アナログでの情報管理によるリスクも内在するので、継続して意識醸成を徹底してほしい。
- ・法令遵守に対する取組みが適切に行われている点は高く評価できる。
- ・「知っている」と「常実践できる」とは大きなギャップがあり、それを埋めるためには、倫理観を高めることが必要と思う。

【基準10】社会貢献、地域貢献、国際交流

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
10-36	社会貢献・地域貢献	3.15	4.0
10-37	ボランティア活動	4.0	

(意見)

- ・地域との交流が活発に行われたり、国際的な学生受け入れなど、社会・地域への貢献は学校の特色であり評価に値する。今後も、継続そしてより強固な関係の構築に発展させることに期待する。
- ・多様な交流の機会を創出している点は評価できる。課題の把握が明確であり、今後の持続的発展に期待できる。
- ・将来、入学希望する学生増・JTBの顧客になってもらうために、JTBと合同で小中学生を対象にしたイベントがあるとよいと思う。

【全体】

(全体を通しての意見)

- ・法令の遵守については、引き続き意識を高めて取組みを図ってほしい。
- ・厳しい環境の中での学校運営と横断プロジェクトの遂行、大変なご苦労があると思う。その状況の中でも、丁寧に対応しながら改革を進めていくことで、着実に成果を出し、学生に喜ばれる学校となっていることは、とても大きな功績である

と評価している。

- ・学校としてあるべき姿を描きその実現に向けて歩まれることで、魅力のある活気にあふれた学校へより進化していくことを、心から期待している。
- ・旅行産業としては盛り上がりを見せつつあるが、学生にとって、旅行会社やツーリズム産業全体の訴求力や、成長への信頼度はまだ低迷している状況なので、JTBグループとしても共に取り組むべき課題であると認識している。
- ・社会からの要請、学生の環境整備、生産性の向上、リスク回避など、デジタル化やシステム化を喫緊の課題として取り組みされることを期待している。
- ・教育理念や経営方針を明確に共有し、産学連携や地域・国際交流を積極的に推進している点が高く評価できる。
- ・学生の就職実績やキャリア支援にも4年連続で高い内定率を維持し、実践的な教育と広い範囲の連携により、社会で求められる人材育成に努めていることが伺えた。
- ・退学率や留学希望者の減少、まだ残るコロナ禍の影響といった課題も明らかであり、これらを克服するための継続的な工夫と仕組み構築、改善にも期待している。
- ・全体として、積極的な取り組みと課題認識がバランス良く進められており、今後の発展に期待が持てる学校運営であると感じた。

以上